

令和 5 年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和 4 年度事業)

令和 5 年 9 月

日野市ふるさと文化財課

(郷土資料館)

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	(1) 組織と職員	
	(2) 主な業務	
4	評価の実施方法	1
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2

7 写真で見る日野市郷土資料館4

事業別 郷土資料館の運営状況の評価表5~17

参考資料

I 令和4年度 日野市郷土資料館の活動状況18~25

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱26

III 第9期日野市郷土資料館協議会委員名簿27

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

令和 4 年度 ふるさと文化財課

館長 1（ふるさと文化財課長兼郷土資料館長）

〔庶務係〕 係長 1、主任 1、用務員 1

〔学芸係〕 係長 1（学芸員）、主査 1（学芸員）、主任 5（学芸員）、主事 2（学芸員）、会計年度職員

5

（2） 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から組織変更した日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。令和 3 年 4 月から郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、生涯学習課文化財係が組織統合し「ふるさと文化財課」となり郷土資料館の使命を引き継いでいます。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年 1 回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教

育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

評価の対象は、 令和4年度の評価対象は、次の9事業について行うこととしました。

No.1 学校教育との連携事業

No.2 企画展等開催事業

No.3 特別展「七生丘陵いま・むかし～ハイキングコースを歩く」の開催事業

No.4 文化財緊急調査および資料収集事業

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

No.7 市民協働調査事業

「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか

No.8 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業

No.9 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

<<郷土資料館協議会の評価>>

令和4年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の項目別概要は次の通りです。

No.1 学校教育との連携事業

コロナ禍を契機に学校での授業が AI やタブレットの活用へと向かう中で、実物資料に触れ、実体験ができる場として役割を深めての欲しいとのご意見をいただきました。また、子どもにもわかりやすい説明の充実や、学校の先生方に向けた利用案内を求めるご意見などをいただきました。

No.2 企画展開催事業

市内各所で実施している出張展示や、平山小学校の文集から地域を捉えた「ひのっ子暮らし展」を評価するご意見をいただきました。その一方で、日野市内だけでなくより広い範囲を視野に入れた展示や、旧石器時代から現在に至る通史展示を求める声もいただきました。

No.3 特別展「七生丘陵いま・むかし～ハイキングコースを歩く」の開催事業

日野市民にとって身近な七生丘陵を見直す内容に評価をいただき、継続的な取り組みを望むご意見をいただきました。早い時期からの広範な PR が、今後の課題と言えます。

No.4 文化財緊急調査事業

有形文化財のディテールを記録し、公開・調査する取り組みへの評価をいただきました。他方、上人塚の整備や第一蚕室の活用など、文化財所有者や地域、あるいは関連各課と連携しながら解決しなければならない課題の指摘もいただきました。

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

古文書のみならず、近世以降の各種資料や、民俗資料やなどについても、整理・保存の計画をしっかりと検討し、適切な環境で保存できるスペースを確保する必要性を指摘いただきました。

No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

事業が市民に知られておらず、定着していないとの指摘をいただいています。案内広報・情報発信の充実はもとより、公園や周辺商店街の活用など、他課との連携や他の課題解決につながるものを進め、市民理解を得るといったご提案や、活動のジャンルを広げるべき、といったご意見をいただいています。

No.7 市民協働調査事業「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか長年の市民団体との連携により、幅広い成果が蓄積されている点に評価をいただいています。その成果の発信の方法や、団体構成員の高齢化への対応が課題とされています。

No.8 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業

巽聖歌の関連した資料整理の重要性や、遠方の紫波町との連携の大切さ、新美南吉と併せた情報発信などについて、ご意見をいただきました。また、巽聖歌没後 50 年と日野市制 60 年を契機に、いかに事業を盛り上げるかが課題として指摘されています。

No.10 資料館講座・体験学習事業

特に自然系の内容を中心に、子どもをはじめとした多くの人の参加を促すご提案をいただきました。

<<郷土資料館の自己評価>>

郷土資料館が令和 3 年 4 月にふるさと文化財課として新たなスタートを切ってから、2 年目となる令和 4 年度の事業について、評価をいただきました。

令和 4 年度の事業目標は、これまで行ってきた業務を停滞させることなく、専門職員の協力体制の下でその継続、深化をはかることと、地域の文化財を面としてとらえ文化財の総合的な把握を行うこと、の 2 点で、前年度と変わりません。新しい課のスタートに伴い、新しい様々な取り組みをはじめた前年度に対し、今年度は少し歩みをおさえて、個々の事業を検証し、地に足をつけた取り組みを行いたいと

いう意図がありました。

主な成果としては、学校の文集に着目した企画展「ひのっ子くらし展」や、七生丘陵の自然と歴史・文化を振り返った特別展「七生丘陵いま・むかし」など、これまでの資料、情報の蓄積の中から、市民にとって身近な題材を選んだ展示を開催したことは、観覧者の視線を改めてご自身の地域に向ける効果がありました。

百草・倉沢エコミュージアム事業では、将来事業を主体的に運営する市民の養成を目的とした「中級編」を新たに設け、市民協働による地域の魅力発見を進めるうえでの第一歩を踏み出しました。

また、新型コロナウイルスの影響下でありながらも、各地でのアウトリーチ展示を精力的に展開し、講演会もコロナ禍前に近い内容、回数で開催できた点も、評価できると考えています。

しかしながら、以前からの課題であった情報発信、すなわち、市民への事業の周知や事業成果の公開が不十分であることは未だ改善が見られず、今回の評価でも多くのご指摘をいただきました。暮らしや学びの方法が多様化している今日において、従来の手法にとらわれることなく、柔軟な姿勢で取り組む必要があります。

また、従前からご指摘をいただいている古文書をはじめ、近代以降の文書資料、民俗・考古・自然に関する資料、さらに写真や映像などを、いかに安全に、かつ体系的に保存し、次世代に継承するかは、大きな課題となっています。失われゆく貴重な資料を救い出し、整理・保存する人と時間と、資料を安全な環境で保存するための十分なスペースを確保しなければなりません。これらはふるさと文化財課だけで解決できることではありませんが、日野市の宝物を自分たちで守ろうとする市民の意識を高め、そしてその宝物をしっかりと保存継承する仕組みを作り上げることが、ふるさと文化財課に課せられた最も大きな使命であると考えています。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、

5 ページ以降の評価表のとおりです。

7 写真でみる日野市郷土資料館

郷土資料館は、日野市を調べ、館内での展示のほか出張展示、体験学習、野外講座など様々な方法でふるさと日野を伝えています。



旧高幡台小学校校舎にある郷土資料館

教室を改装した展示室 鍛冶屋コーナー



企画展「日野市の天然記念物」

パネル展 勝五郎生まれ変わり物語



職場体験の中学生が選択し配置した写真展示

特別展関連事業 観察会

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.1 学校教育との連携事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財を活用し、小中学校と幼稚園・保育園などを対象とした文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校などの要望を取り入れた内容で行う。 ・授業などに用いる写真資料や、参考文献などの情報を提供したり、見学場所や人材紹介などを行う。 ・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。 ・学校教育や郷土教育推進研究委員会と連携し、郷土に関する情報の発信を行う。 	
<p>事業の成果</p> <p>令和 4 年度は、新型コロナウイルスによる影響が減少してか、小中学校の利用が増えている。</p> <p>< 来館 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学や地域学習など小中学校来館 11 件 (令和 3 年度 5 件) ・中学校職場体験 5 件 (令和 3 年度は職場訪問 1 件) <p>< 出張授業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間 七生丘陵 (小 3 1 件)、社会科日野市のうつりかわり (小 3 4 件) 、出張授業 総合的な学習の時間郷土学習 (中 1 1 件) (令和 3 年度は 8 件) 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が郷土資料館と接する機会があるように、職場体験以外の活用方法を深めていただきたい。 ・コロナの規制がなくなった中で、AI やタブレット中心の授業になったが、実体験のよさ、本物のよさを PR し、感動のある教育を、学校と連携し推進してほしい。 ・コロナ後は学校の活用実数が増えると思込まれる。 ・子どもが団体や個人で来館した時に、分かりやすい文章やイラストを用いた説明などが必要。 ・学校での活用方法や利用手続き、提供できる資料リスト、従来実施した成果や事例などを、マニュアル・教員向けガイドとして整備し、学校にわかりやすく発信する必要がある。郷土資料館では、どのようなことができるのか、どこがおもしろいのか、社会科見学や、職場体験などの事例も発信するとよい。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室での密を避けるために、10 数人のグループに分割しての説明を行った。慌ただしい時程となった反面、少人数で集中して聞いてもらえた。学校活動が通常にもどりつつあり、コロナウイルス感染症の取り扱い変更に伴い、展示室での人数規制はなくなったが、少人数単位での見学の良さを経験したことを踏まえ、最善のプランを教諭とともに考える。また、学校の人数や希望に応じて映像、触れる、音を聞くなど見学時には、展示資料を見るだけでなく体験的なメニューを用意する。 ・見学や出張授業などの際には、学校との連携を密にして、実施内容について共通理解したうえで効果的にすすめる必要がある。手続きマニュアルや事例について、校務支援システムなどを用いて学校に提供し、郷土資料館の活用についての情報を入手しやすくする。 ・郷土教育推進研究委員会を通してなど、郷土資料館からの学校への情報の発信や学校からの情報を受け取り、連携を強化する。 ・来館や出張授業以外の、新たな郷土資料館資料活用については、当館からの積極的な発信を行うことはできなかった。連携を強化する中で、学校の実情を把握し、教科に関連して提供できる資料を紹介したり、活用事例の少ない学年や中学校などへも提案をする。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.2 企画展等開催事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料館が実施する展示は、歴史館で実施する特別展示、資料館内での常設展・企画展・パネル展館外で実施する出張展示である。特別展以外の展示についての事業をこの項目にとりあげる。 郷土資料館は旧小学校舎を活用しており、3教室分で資料を収蔵しながら展示を実施している。民具の収蔵整理のため1教室分を閉鎖していたが、令和4年度2月に鍛冶屋の道具を中心とした展示室として整備し公開を開始した。 テーマを設定して様々な、日野の歴史・文化・自然を伝えている。また、廊下壁面でのパネル展示や、館外でのパネル展示を実施し、より多くの方にふるさと日野を伝える展示を実施している。 	
<p>事業の成果</p> <p>令和4年度は、資料館会場の企画展回数を1回増やし3回とした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 企画展（3回/年） 会場：郷土資料館 <ul style="list-style-type: none"> 「日野市の天然記念物」 4月2日～9月4日 1,307人 「鎌倉殿の平山季重～中世日野の武士の様相」 9月10日～12月4日 1,770人 「ひのっ子くらし展～文集からみた昭和の子ども環境～」 12月10日～3月26日 1,216人 パネル展（4回/年） 会場：郷土資料館 <ul style="list-style-type: none"> 「翼聖歌と童謡「たきび」誕生80年」 12月8日～4月21日 ※令和3年度企画展 「七生丘陵散策コース 池」 4月22日～8月3日 「明日に伝える戦争体験」 8月5日～9月22日 「見直そう！楽しもう！真慈悲寺 ～新たな瓦の発見に沸く～」 10月7日～12月4日 「ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語」 12月8日～4月4日 出張展示（5回/年） <ul style="list-style-type: none"> パネル展「七生丘陵散策コース 見晴らし台」 平山季重ふれあい館 3月25日～6月20日 パネル展 京王百草園会場 4回 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 狭いスペースで出張展示ができるミニ展示で、市内各所で発信する姿勢を続けてほしい。市役所1階の翼聖歌展（令和5年度実施）では、順番待ちの市民が見て、短時間でも感銘を受けることができる。 日野の場合、美術系分野の活動が少ない。 日野市域に限定された展示が多いが、もう少し広く、南多摩あるいは多摩川北岸を意識した展示構成も検討していただきたい。 百草観音堂のスタジオの天然記念物指定されたばかりでタイムリーな展示だった。天然記念物の展示では実物が展示できない樹木が多かったため、現地の地図があると実際に行くことができている。 それぞれ面白い特色のある展示だった、中でも注目したのが、企画展「ひのっ子くらし展～文集からみた昭和の子ども環境～」。子どもたちの文集に焦点をあてた特色ある展示であった。現在、小・中学校が所蔵している学校資料が、学校の統廃合や管理上の観点から廃棄が進んでいる。学校資料は地域を語る資料としても重要であるので、学校と連携しながら調査や保存のあり方などを検討して欲しい。 「ひのっ子くらし展」のような新しい分野の企画展を開発・実施する。学校の文集が何十年もたち、子どもたちの声がとてもよい教材となる。授業に取り入れると子どもにとっても、分かりやすく昔との違いを知ることができる。学校にも古い文集が残っていても伝わっておらず、活用啓発をお願いしたい。 「ひのっ子くらし展」は新鮮であったが、現在も続く、大人の綴方の冊子を目にし、大人へのアピールも欲しかった。 「ひのっ子くらし展」のパネルが、令和5年度に平山小学校に貸し出して授業や周年行事に活用 	

されるという連携が素敵である。

- ・旧石器から現在にいたる通史の展示が見られないのが残念である。歴史の流れを感じる事ができないので、通史展示を実現させてほしい。

課題と改善策

- ・令和3年度はコロナにより臨時休館があったが、4年度は臨時休館しなかった、館内消毒など安全対策を講じて開館を継続した。
- ・SNSなどでの情報発信が有効だったことがわかった。メリット・デメリットを考えた上で、活用していく。
- ・昨年度実施したイオンモールの空店舗が使えなくなり、出張展示の機会が減ってしまった。小さなスペースや機会をとらえて会場を開拓する。
- ・展示終了後に学校や市内の会場などでの出張展示を行う。新発見事項を追加するなど内容を深めて、発展した展示内容とする。
- ・分野や地域についても幅広く柔軟に企画展のテーマを検討する。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目 No.3 特別展「七生丘陵いま・むかし～ハイキングコースを歩く」の開催事業
事業の概要 <p>七生丘陵地域は、江戸時代以前から風光明媚な地として知られ、高幡不動尊や百草松連寺（現・京王百草園）などには多くの人々が訪れていました。 どのような理由で行楽地が整備され、人々が訪れてきたのか、ハイキングコースを中心に、観光地・行楽地としての七生丘陵の歴史を紹介する。あわせて七生地域の文化財や自然も紹介し、現在も楽しめる七生丘陵の魅力を紹介し、あわせて講演会や見学会を開催する。 【会 期】令和4年10月4日（火）～12月11日（日） 【会 場】新選組のふるさと歴史館</p>
事業の成果 <p>会期中の入館者数 2,977人 関連行事の開催 1 10月30日（日） 「野猿峠ハイキングコースを歩く」 会場 高幡不動集合→愛宕山山頂から平山城址公園へのハイキングコース→平山城址公園駅 参加人数 14人 2 11月6日（日） 講演会「ハイキングの歴史と七生丘陵の変遷」 講師 金子淳氏（桜美林大学教授） 会場 市役所 505 会議室 参加人数 24人 3 11月20日（日） 観察会 「七生丘陵で秋の鳥、虫、植物を観察しよう」 講師 安西英明氏（公益財団法人日本野鳥の会 参与） 会場 百草台自然公園→三角点公園 参加人数 13人</p>
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・企画展等、アンケート等で市民の声を取り入れて実施する方針は、達成されているのか。・良い展示であった。PR が不十分だったというが、反響はどうだったか、来館者数は伸びなかったのか？・身近なところにこのような場所があることを周知したい。一回限りではなく、継続することが大切。・日野市の外から見た時に多摩動物公園、高幡不動尊は有名。ハイキングや真慈悲寺など昔の日野に一大観光拠点があったことや、有数の寺院があったということにロマンを感じて地域を見直すきっかけとなった。・地域の自然や文化を踏まえ活かした活動として注目、継続的な活動を望みたい。
課題と改善策

- ・十分なPR活動を行うことができなかった。関連課・関連企業の協力やマスコミの活用など早めに準備をすすめて、広く周知する。
- ・今回の展示に終わらせず、地域の魅力の発信を継続し、地域を実際に訪ねてみたい方への支援や情報提供を継続する。目新しさや目玉となる資料などを加えるなど、資料選択や展示構成に工夫する。
- ・アンケートや市民の反応もふまえて、令和3年度に実施した特別展示を郷土資料館にて小規模な展示を開催した。今後も企画立案の際には、市民の声をとり入れる。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.4 文化財緊急調査事業および資料収集事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。 ・個人所蔵の資料の調査や資料受領を行い、地域の文化財として収集し活用する。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市指定有形文化財の銅造地蔵菩薩坐像（通称：坂下地蔵）の台座等に記された銘文について調査した。またそれに伴い、写真による記録撮影を行った。実施にあたり管理団体である横町自治会の協力を得た。 ・日野本町在住市民より市域の古写真の提供を受けた。それらを地域資料として活用するため、写真の複写を行った。 ・生活用具、農具、写真など、11件の資料寄贈があった。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・塚つかウォークに参加したが、上人塚が荒れ放題であった、整備・活用がなされておらず、市民に還元されていない。 ・「日野桑園第一蚕室」の活用について進展がなされず、なかなか活用・公開がされていない。熱意をもって活用計画を立てるべき。 ・銅造地蔵菩薩坐像の台座に記された銘文を撮影して記録したことは、大変意義あることだと思う。座像などの有形文化財は頻りに現物に接することが難しく、現在の高精細な画像を作製すれば、それを使って調査を進めることができる。銅造地蔵菩薩坐像の管理団体である横町自治会の協力を得ているので、同自治会に研究成果を提供していけば、さらに連携を深めていくことになるであろう。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「緊急案件」ではあるが、計画できるものは、事前に予算も含め調査計画をたてる。 ・日野桑園第一蚕室の保存修理工事で出た建築部材の公開活用の機会をつくる。 ・失われる前に調査・収集が行われるように、調査結果や収集資料を公開し、文化財の大切さを広く周知する。 ・文化財の大切さの認識を伝えるために、文化財を所蔵する、団体・企業・個人などとの繋がりを深め公開の機会を設け、調査成果を還元する。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市域の歴史を語る上で貴重な古文書等歴史資料を収集し、調査、整理、目録作成、撮影などを行ない、必要に応じて修復など保存のための手段を講じる。 ・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。 ・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。 ・郷土資料館がこれまでに保管および撮影してきた古文書等歴史資料のフィルムやデジタルデータを整理し、資料館の事業に活用する。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の取り壊しなどで散逸の恐れのある資料を引き取り、寄贈（南平S家）・寄託につなげた。また、個人所蔵の資料を期限付きで借用し、調査、整理、目録作成、撮影などを実施した（日野宿F家など）。 ・地域の歴史に関心を持つ市民が、古文書や歴史資料を所蔵する他の住民を促して、資料館への相談や調査の橋渡しをしてくれる例が増えている。また、それをきっかけに、所蔵者が古文書への関心を持ち始め、古文書を学び始め、解読できるようになった例に触れることも出来た（日野宿H家）。市民の学習に寄り添って協力し、歴史資料の大切さを市民に普及できている手ごたえを感じられた。 ・日野の古文書を読む会研究部会と協働で、旧蔵文書（程久保T家）や寄贈文書（日野宿M家）の整理を20回実施し、ボランティア延べ99人が参加した。また、古文書の解読を42回行い、ボランティア延べ386人の参加があった。新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着きを見せ始め、ほぼ休止することなく活動できた。前年度まで約2年間休止していた「日野の古文書を読む会」の例会も再開することができ、11回延べ210人の参加があった。 ・初心者向け古文書講座を2～3月の日曜日に全6回開催した。今回は主に「旅」に関連する資料を教材に選んだ。講師は「日野の古文書を読む会」の大窪俊彦氏と上野さだ子氏で、往来手形や伊勢参宮道中記などについて講義をした。延べ103人の参加があった。受講者が所蔵する旅に関する資料を持ち込むなどして、活発な意見が交わされた。高齢の受講者が多い中、4月から大学の史学科で学ぶ予定の高校生1人の参加もあった。 ・虫損の被害が甚大だった「平山村田畑反別其外取調野帳 字七号～拾三号」の裏打ち修復を委託にて実施した。表紙と裏表紙を含め全138帖のうち、令和3年度に42帖分、同4年度に残り96帖分を修復し、完了した。この資料を含む旧七生村役場文書や日野市行政資料は、資料館が保管しているが、令和4年度に図書館と協働で「日野市歴史的な重要文書撮影」が委託で行われ、行政資料のデジタル撮影が大幅に進展した。撮影にあたって、新たに資料整理と目録作成も行われた。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を6月、10月、1月の3回開催した。

協議会の意見

- ・館活動にとって重要な課題ですが、それだけに考えなければならないことも少なくないかと思う。古文書等歴史資料整理編集委員会の活動に注目するが、これは文化や自然などの分野にも必要なものだろう。
- ・歴史資料とは江戸時代までの古文書のみならず、近代以降の行政資料、個人や企業資料、地図や写真、フィルム、映像なども含まれる。歴史資料には様々なものがあるので、各種資料を分かりやすく紹介して多くの人びとに知ってもらうことが大切であろう。このような認識を踏まえて、教育センター施設の閉鎖後も収蔵スペースを確保して、この事業を継続できるように準備していただきたい。
- ・施設の閉鎖までに膨大な資料の保管・整備計画について、先手を打ち着実に推進してほしい。
- ・古文書に限らず、民俗資料等の保存環境や方策について検討していただきたい。
- ・古文書の調査や修復について、具体的な方針や進捗状況などを明記してほしい。
- ・古文書は、ほかの地域の日記を読んで日野のことがわかることもあるので、日野市のものだけでなく、総合して古文書レスキューに力をいれていくべきである。
- ・古文書の保管場所を確保した上でのレスキューである。図書館ではアンケートをとっているが、施設の老朽化についての情報を知らせてほしい。またアンケートの結果がどこまで反映されるのか疑問である。

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

課題と改善策

- ・日野市行政資料は、いまだ未整理及び未撮影のものが多くあるため、今後も引き続き「日野市歴史的重要な文書撮影」の委託を行えるようにしたい。
- ・行政資料だけでなく、個人や企業が所有する資料の中にも、日野市の歴史にとって重要なものがたくさんある。それらが適切に保存されるよう、また保存が難しい場合でも、記録や撮影が行われるようにする。撮影されたデジタルデータが、将来的にデジタルアーカイブとして学校教育や市民が利用しやすいような仕組みづくりを進める。
- ・上記の事業を行うために、資料の保管場所や古文書を取り扱う技術や経験を持った人材と、資料の保管と調査研究ができる環境の確保は急を要する。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 6 百草・倉沢エコミュージアム事業
事業の概要	<p>平成 18 年「真慈悲寺調査推進プロジェクト」の発足を契機に、百草倉沢地区の歴史・文化の調査、研究、普及活動を実施してきた。実施にあたっては、調査活動、現地ガイドも市民ボランティアが務め、真慈悲寺を含む百草地域の歴史を発信してきた。また、史跡周囲の環境整備、市民ボランティアとともに精力的に活動を行ってきた。百草にある真慈悲寺調査センターを拠点としている。</p> <p>令和 3 年度からは、「百草・倉沢エコミュージアム」と称し、百草・倉沢地域全体を「屋根のないミュージアム」としてとらえ、史跡や自然といった地域の魅力を発信していく事業を展開している。真慈悲寺調査を引き継ぎながら、百草・倉沢に関する多様なテーマに、ふるさと文化財課全体で取り組んでいる。</p>
事業の成果	<p>真慈悲寺関連事業では、パネル展や講演会などを通して、百草地域の歴史を広く知らせることができた。松連寺住職墓地や百草地域解説看板清掃など市民協働で実施し、史跡見学時の環境を整備することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真慈悲寺現地イベント講演会 「百草八幡神社と真慈悲寺の中世瓦」 深澤靖幸氏 ・京王百草園 「百草の歴史を楽しむパネル展」シリーズ（全 3 回） <ul style="list-style-type: none"> ①4.29～5.8「鎌倉殿の 13 人と中世の大寺院真慈悲寺」 ②11.12～11.18「百草園にあった 鎌倉幕府ゆかりの大寺院真慈悲寺」 ③2.4～2.12「百草観音堂と領主小林権大夫」 ・郷土資料館パネル展「見直そう、楽しもう真慈悲寺～新たな瓦の発見に湧く～」10.6～12.4 <p>寄贈された縄文土器・石器（万蔵院台縄文コレクション）の整理作業を体験的な学習の機会を提供しながら、市民協働で実施した。熱心な参加者は「考古学がし隊！」のメンバーとして、継続的にコレクションの整理作業に延べ 19 回 186 人が参加した。また、「縄文土器作り・土器焼き」の体験的な講座を実施した。</p> <p>百草八幡神社境内を实地踏査し百草八幡神社境内埋蔵文化財確認調査を実施した。神社氏子会、「真慈悲寺調査の会」、「考古学がし隊！」といった人々が協力し、未発見の文様の瓦が見つかるなどの成果を得ることができた。特別展「七生丘陵いま・むかし～ハイキングコースを歩く～」の関連行事として、百草地域を会場とした自然観察会を実施した。</p>
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への内容理解を図り、市民の支援のもとで、調査・発信を継続してほしい。 ・歴史・文化・自然の魅力を知らせ、後世に伝えるための具体策と中長期計画が求められる。 ・百草では、最近新しくできた公園(マシイ坂公園やつくればやま公園)に「百草里山ウォーキングマップ」が掲示されている(緑と清流課)。このような看板や掲示板などに、史跡や自然などの情報を盛り込んでもらえれば、公園をエコミュージアムの情報発信の場とすることができる。 ・考古学の課題だけでなく、ほかの地域課題を解決することにつながられると思う。令和 3 年度の百草のスタンプラリーも地域の観光的な面にもつながっている。休憩場所や情報発信の拠点としては、少し距離が離れるが百草団地商店街の空き店舗を活用できないか。商店街は空き店舗が増え閑散としてしまっているが、百草倉沢の散策拠点として活用できれば商店街の活性化にもつながる。高幡不動からのバスの本数も多いため、交通の便としても良い場所にある。他との連携や他の課題解決につながるものを進めていくと市民の理解も得られるのではないか。 ・「エコミュージアム」としては、環境保全課が所管の日野市生物多様性地域戦略の中でも「カワセミハウスのエコミュージアム拠点化」が施策として盛り込まれている。 <p>カワセミハウスを拠点として、各地域のサテライトで活動する主体との協同体制を構築するというものであり、百草倉沢地区もサテライトとして連携できるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百草倉沢エコミュージアム事業は、何年も前から PR して、雑誌とも連携して取り組んでいるのが、ほとんどの市民にエコミュージアムが定着していない。市民にエコミュージアムとは何か、どのように地域を楽しめるのかということの理解をはかってほしい。市民の支援のもとに市民の調査・発信をしてほしい。

No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

協議会の意見

- ・百草倉沢エコミュージアム事業は参加してみると、職員が熱心に取り組んでいる。その一方で市民一般には、何をやっているのか伝わっていない。子どもの貧困の問題など現在生きている人の方が大事だと考える市民が多い。
- ・日野市に限らず自治体にお金がないとすれば、市民が資金を集めて事業をやることも必要だと思う。
- ・興味のある事業を開催しても市民に知られていないし、人気のある講座はすぐにいっぱいになってしまう。広報ひの、LINE、HPがあってもよく分かりにくい。
- ・郷土資料館に限らず日野市の情報発信がわかりづらい。市役所内部でも情報共有がはかられていない。この会議に来てはじめて情報を得ることもある。

- ・良い講座を開催しても参加人数が少なく、郷土資料館の行事も参加できない。参加できなければ日野市を知ることができず、日野市には何も無いと思われてしまう。
- ・市民は興味がないことには、見学したり参加したりしないので、ジャンルを広げてみてはどうか。
- ・日野市の湧水が話題になった。湧水や用水のように、日野市外からも注目される日野の魅力があっても日野市民がその価値を知らないこともある。そのようなすばらしいことを発信してほしい。子どもたちにも郷土資料館が発信して伝えてほしい。
- ・エコミュージアムの浸透をはかるには、日野市なりの町の規模や現状を的確に把握した上で、より良い方法をとる必要がある。
- ・地道な努力を続けながら発信してすすめてほしい。

課題と改善策

- ・百草・倉沢地域の歴史・文化・自然の魅力を知らせ、後世に伝える役割を果たすために、百草・倉沢エコミュージアム事業展開をするために、中核となる施設（真慈悲寺調査センター）のほか、アンテナとなる史跡、施設、店舗、それらの資源を結ぶコースを設定していく。大きな計画を実現させるために、一步一步前進していく。
- ・案内表示、休憩場所などのインフラ整備については、市他課などと連携をする。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により縮小していた市民との活動を再開させるにあたり、不安がないよう努める。
- ・万蔵院台縄文コレクションの数が膨大であるため、「考古学体験」を重ねてレベルアップして、市民と協働して作業ができるような体制で整理作業をすすめる。
- ・エコミュージアム事業そのものについて、市民には浸透しておらず、考古学以外の分野についても、自然観察会など普及事業を展開し、発信を続ける。
- ・エコミュージアムとして発展させていくためには、各方面との連携が不可欠であるが、地域の団体、農家、関連企業、大学、日野市の他部署などと連携するため、機会をとらえ声かけをする。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 市民協働調査事業 「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか
事業の概要	<p>郷土資料館は、市民と協働して調査普及事業を実施してきた。「日野の古文書を読む会」、「日野の昭和史を綴る会」、「真慈悲寺調査の会」、「勝五郎生まれ変わり物語探究調査団」、「七生丘陵調査団」、「程久保ボランティア」、「サイノカミどんど焼勉強会」といった資料館を中心に活動している団体がある。そのほかにも各団体や個人と協力関係をもって、郷土資料館の調査や普及活動を行っている。「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信を評価の中心とする。</p> <p><勝五郎生まれ変わり物語> 平成 18 年度より、地元に残る生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行なっている。令和 4 年度の活動は、総活動回数 24 回、参加者 354 人だった。令和 2 年度より配信している YouTube の累計視聴回数は、818 回増加して 4,400 回となった。3 月に実施予定だった子ども講座は、雨のため中止となったが、小学生 7 人・幼児 1 人・大人 5 人の申し込みがあった。参加予定者には、当日配布の資料などを送付した。令和 4 年度も郷土資料館の学校見学プログラムの中に、勝五郎 DVD の視聴を加えてもらったので小学生への良い普及活動となり、子どもたちの反応も良好だった。(3 校の小学 3 年生 343 人) コロナ流行のためか、「疱瘡」というウイルス由来の伝染病で子どもたちが亡くなったことに関心が寄せられた。今年度は 4 年越しの懸案事業だった調査報告書改訂版の刊行を実施することが出来た。調査団の活動の大部分を改訂版刊行に費やした。また、11 月例会を、「露姫没後 200 年」記念例会とし、露姫の事蹟の見直しをおこなった。コロナが終息しない状況で、記念日イベントや見学会は見送りとなった。</p> <p><七生丘陵調査団> ・平成 21 年度に結成された「七生丘陵調査団」は、七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えている。 ・市民団体の七生丘陵調査団と協働して実施にあたる。 ・七生丘陵調査団には自然班と歴史班がある。市民の興味や得意分野をもとに資料館と連携してテーマを設定し、調査を行なうもので、生涯学習の機会提供ともなる事業である。</p>
事業の成果	<p><勝五郎生まれ変わり物語> 令和 4 年度の事業の成果は、なんといっても報告書改訂版の刊行である。前回の報告書は完売し、購入を希望する方が相次いでいた。予算の都合で 500 部しか刊行できなかったが、WEB 版での全冊公開を予定している。(掲載許可済・公開の準備済・紹介の動画を作成したのち、ホームページから公開する。) 報告や資料の全面的見直しを行ない、誤りを訂正し、新たに多門傳八郎についての調査報告と小泉八雲についての論考を加え 22 頁の増頁となった。紙幅の関係で概略を載せる事しかできなかった調査団の活動報告は、WEB 版で詳細を掲載することとした。紙版の刊行は当面難しいので、今後の成果発表は WEB で行なうことになる。 すでに、様々な反響があり手ごたえを感じているが、報告書をまとめたことで、調査団の勝五郎生まれ変わり物語への見方が今までと変化してきていることを感じている。もう少し研究を進めると、新たな展開を示すことが可能になると考えている。</p> <p><七生丘陵の自然と歴史> ・調査団員の野外活動・例会など 51 回、延べ 203 人。 ・令和 4 年度のテーマである丘陵散策コースの見晴らし台を中心に、動植物の記録や写真撮影を行った。</p>

- ・平山季重ふれあい館において、パネル展「七生丘陵散策コース 見晴らし台」を開催した。パネルの編集も調査団が行った。
- ・令和4年度は、外歩きの講座「程久保川に沿って歩こう～中流から多摩川・浅川の合流点をめぐりて」を実施した。調査団の市民がコース設定をし、案内役を務めた（一般参加8人）。

No. 7 市民協働調査事業

「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか

「日野の昭和史を綴る会」との共同調査では、日野本郷の地名、市内の文書の解説を実施した。サイノカミ・どんど焼き勉強会では、松、しめ縄づくり調査、コロナ禍におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査を行った。

市民とともに調査を実施することで、多様な視点での気づきを共有することができた。また、協同作業により、調査や整理作業が格段に進んだ。普及活動を市民が行うことで、地域の魅力を市民目線にたって実感を込めて伝えることができた。

協議会の意見

- ・調査団の高齢化の現状と、具体的な対策を知りたい。
- ・他課との協力事業は、郷土資料館がリーダーシップをとり、内容の向上と変化を図ってほしい。
- ・勝五郎の報告書の改訂版印刷部数が500部しかないのは残念。
- ・日野市では「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」や「七生丘陵調査団」をはじめ、多くの市民団体が郷土資料館と連携して活動してきた。その結果、長年にわたる活動による展示や刊行物などの貴重な成果が蓄積されている。WEB版でだすとかな新しい手法もある。今後、これらの活動や成果をどのように継承していくのか、それぞれの団体と協議しながら今後に向けての計画を検討して欲しい。
- ・従来あったものに留まらず、その枠組みを広げた活動に注目できます。真慈悲寺や勝五郎など、継続的な事業の成果の積み重ねが評価できます。勝五郎についてはオカルト流行の中で、さらに一歩を進めようとしている姿勢を感じる。

課題と改善策

<勝五郎生まれ変わり物語探究調査団>

- ・報告書改訂版を行なったことで、これからの課題が様々に見えてきた。今まで調査した資料をもう一度見直し、不足している調査を行なう事や、次世代の人々にもわかる様に整理作業を行う。
- ・報告書を刊行した後も、新たな資料の発見があり、まだまだ調査・研究の余地があることがわかった。成果は必ず後世に残されていくものと確信しているので、今後も息の長い活動を続けていく。
- ・普及活動が進んだことで、調査団の活動の成果を利用してくれている場面にも多く遭遇した。今後も活動成果を発信して、成果活用の機会を増やす。

<七生丘陵調査団>

- ・参加市民の高齢化にともない、野外活動での安全対策や、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。調査してきたことの集約や、活用できるような資料整理が追いついていない。調査記録の整理保存について、5年度当初から議題として具体化を進めている。

<市民協働全般>

- ・高齢化により、活動に参加できなくなる市民もあり、新たな参加者とともに活動を充実させていくこと必要である。コロナ渦中では活動も少なくなり、新たな参加を呼びかけることも控えめであった。状況も変わったので、活動が活発化するよう支援する。講座イベントの際に活動紹介を行うなど、参加の呼びかけを行う。野外活動などでは高齢者でも無理なく参加できるような時間や会場設定を配慮する。
 - ・メンバーの入れ替りもあり、積み重ねた調査成果の継承を市民と協議して進める。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 8 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市で後半生を過ごした詩人・児童文学者の巽聖歌について、日野市寄贈資料の調査・研究・保存を図るとともに、巽聖歌とその作品についての普及活動を行うことを目的としている。 ・平成10年に、旭が丘の巽聖歌自宅の取り壊しに伴い、資料の存在が確認され、「たきび会—巽聖歌を讃える会」と、たきび祭の実行団体である「旭が丘商工連合会」などと共に、調査・研究・普及事業を展開してきた。 ・巽聖歌に関する動きとして、平成11年「たきび詩碑」が建立、平成18年「たきび祭」が始まり、平成22年には豊田駅発車メロディーが童謡「たきび」となった。平成29年には、聖歌の出身地紫波町との姉妹都市盟約が締結された。 ・郷土資料館では企画展などの各種関連事業が実施し、毎年なたきび祭前夜祭では「巽聖歌朗読と歌のつどい」を開催してきた。 ・令和5年は巽聖歌没後50年、日野市市制施行60年の記念の年にあたる。新選組のふるさと歴史館を会場に、巽聖歌の生涯とその業績を辿った特別展を行う予定である。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からの続きで、4月21日までパネル展「巽聖歌と童謡たきび80年」を開催した。 ・令和4年度は3年ぶりの「たきび祭」が盛大に催された。前夜祭では、前年度にみつかった童謡「たきび」ラジオ放送に関する新しい資料をもとに、「童謡「たきび」と『ラジオ少国民』をテーマにした講座を行い、40人の参加があった。たきびの詩碑前では、巽聖歌作品に着想を得た、旭が丘小児童が描いた灯籠が並べられ、その明かりの中で「たきび」を斉唱した。 ・たきびの詩碑のある旭が丘中央公園の地区センターで、退職校長会による巽聖歌勉強会を行った。 ・令和5年度の巽聖歌没後50年記念事業の準備として、巽聖歌資料の整理・調査等を行った。 諏訪市美術館・岡谷市美術考古館：巽聖歌の妻野村千春が描いた絵画の調査 巽聖歌の故郷紫波町の実踏 新美南吉の故郷半田（岩滑）の実踏と新美南吉記念館の調査 巽聖歌・新美南吉・与田準一が共に過ごした中野区上高田の実踏
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・巽聖歌没後50年、日野市制60年の特別展や関連事業を契機に、大いに盛り上げ、事業を定着させる。あまり盛り上がっていないように思える。 ・紫波町との連携・交流関係を双方向のものにしてほしい。 ・巽聖歌没後50年事業は、節目の事業としてその成果に大いに期待している。事業終了後も巽聖歌関係資料の保存と整理は継続していくので、新美南吉記念館など連携機関の見聞も参考にしながら今後の方針を検討していただきたい。 ・日野市内の施設との連携も大切だが、遠方との施設連携は大切である。苦労話もお互いできるような仲となり情報を共有できるようになると今後より一層の連携が進むのではないか。 ・巽聖歌は日野の新たな顔の一つになるかと期待できますが、それだけにそれに答えられる資料整備が必要となります。 ・巽聖歌に関する日野第四中学校の活動なども取り上げて発信してはどうか。 ・日本中の小学生が、新美南吉の「ごんぎつね」を学ぶので、これと併せて巽聖歌も発信できればよい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・巽聖歌自宅から引き継いだ資料の量が膨大なため、資料の整理が進んでいないのが、最大の課題である。 ・令和5年度の、巽聖歌没後50年事業に向けて、紫波町や半田市の新美南吉記念館とのコラボ企画も提案されているので、一層の資料の整理と蒐集を進めていきたい。 ・巽聖歌資料の担当者が25年間変わっていないので、令和5年度事業を複数の担当で進めながら、世代交代を行う。 ・紫波町や半田市といった巽聖歌の縁でつながる地方や、市内の学校や関連団体とも連携して、令和5年度の展示開催を契機に、「巽聖歌」についての普及を大きく進める。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 9 資料館講座・体験学習事業
事業の概要 ・郷土の文化や歴史・自然などを、より深く学ぶために講座や体験をともなう学習会を開催する。 ・No.8 までの個別の事業として取り上げた講座・事業と重複するものも含めて、No.9 としてまとめた。	
事業の成果 郷土の自然・歴史・文化などについての講演会や体験学習会を開催し、より深く学ぶ機会を提供することができた。また、他課との協力事業へ職員が講師となったり、団体の学習会への講師派遣も行った。 <講演会および講座> ・たきび祭 前夜祭「童謡「たきび」と『ラジオ少国民』をテーマにした講座 ・初心者向け古文書講座 全6回 講師：大窪俊彦氏・上野さだ子氏（日野の古文書を読む会） ・企画展「ひのっ子くらし展」関連講演会 「子どもの暮らしと年中行事」講師：服部比呂美氏（國學院大學文学部准教授） ・真慈悲寺現地イベント講演会 「百草八幡神社と真慈悲寺の中世瓦」 講師：深澤靖幸氏（府中市郷土の森博物館館長） ・講演会「ハイキングの歴史と七生丘陵の変遷」 講師：金子淳氏（桜美林大学教授） <自然観察会や野外講座の開催> ・化石でたどる大昔の日野 西田尚央氏（東京学芸大学准教授） 会場多摩川 ・程久保川に沿って歩こう～中流から多摩川・浅川の合流点をめざして <他課との協力事業> ・「蚕のここと一緒に学びませんか」（中央公民館 繭から糸取り体験） ・日野市核兵器廃絶・平和都市宣言40周年イベント「日野の戦跡を通して」（平和と人権課） ・多摩学びテラス「多摩の丘陵地と史跡を歩こう」（中央公民館・多摩市公民館） <団体学習会への講師派遣> 平山地域案内、巽聖歌勉強会	
協議会の意見 ・子どもは化石が大好きなので、観察会を開催し大勢に参加してもらいたい。 ・自然科学系の講座が少ないので、展示やイベントをやってほしい。 ・高齢者対策として、多様な参加者層を想定した具体的な計画を立て実施してほしい。 ・他課との協力事業は、郷土資料館がリーダーシップをとり、内容の向上・変化を図ってほしい。多摩市と連携してのハイキングの事業はよい企画である。 ・講座・体験学習会は、啓発活動とし館活動の大きな役割を占めている。 ・化石の観察会は、市内に多摩動物園に現在の象がいる地の利生かして、化石の象のイメージを強く出していただきたい。 ・高齢者以外の参加も促したいとのことだが、子供向けのイベントを行えば親御さんも一緒に参加するため、参加者層を増やすのに効果的である。子供の興味関心から、親も関心を持つことも多い。 ・既存講座でも、内容やタイトルを工夫すれば子供の人気が出そうな講座もある。例えばカイコの講座も多くの子供が小学校でカイコ飼育を行うため興味を持ちやすいと思う。実際に職場の公園で行っているカイコの飼育から糸取り、織まで体験する講座は子育て世代やその上の世代に人気である。 ・もし講座や企画展などに良く参加するような興味のある子供がいれば、声をかけてより深くかかわってもらうことも考えられる。展示や調査に関わってもらう「子供学芸員」のような制度があっても面白いのではないか。次世代を担う子供たちの関りを増やすことができれば、将来的には七生丘陵調査団などの高齢化問題への対応にもつながる。 （資料館事業全体への意見） 限られた条件の中で効率良く運営されていると思う。理想を言えば切りがないが、置かれている	

状況を踏まえ今後とも進めてゆくことが肝要。文化財を主とした観点からの他部署との連携に注目できる。活動内容の様々を見てゆくならば、一方でこれだけの活動を維持するための予算措置などが気になる。こんな課題もあるかと思うが全体を踏まえた上での不断の努力が必要。

No. 9 資料館講座・体験学習事業

課題と改善策

- ・化石の観察会「化石でたどる大昔の日野」は、観察可能な場所が限られ、コロナ対策もあって、少人数定員・短時間で実施した。感染症対策の状況も変わったので、人数・内容ともに充実した企画を行う。
- ・「どんど焼」はイベントとしては中止とした。大勢の参加者が見込まれるイベント的な事業については引き続きの検討課題となる。令和4年度は小屋作り方法の継承と記録のために、職員と関係者により小屋作りを行った。
- ・全般的に高齢者の参加申し込みが多い。子ども、勤労者、学生など、多様な参加者層を想定して事業を計画する。

1 類型別事業数と参加人数 (10. 5. 4)

事業名	回数	参加人数
① イベント：たきび祭（前夜祭）	1	40
② 資料館展示見学（企画展・パネル展示・収蔵展示室見学）	—	4,293
③ 教育普及事業 体験学習会・講座	9	171
④ 出張事業・講師派遣	15	857
⑤ 市民協働資料収集保存（収集資料の整備ほか）	29	80
⑥ 市民協働調査（真慈悲寺調査事業の内、調査・研究、環境整備）	26	196
⑦ 市民協働調査（勝五郎生まれ変わり物語）（web配信 818 含）	14	1,106
⑧ 市民協働調査（七生丘陵）	51	203
⑨ 市民協働調査（古文書等）	84	807
⑩ 市民協働調査（民俗）	12	40
合計	241 回	7,793

2 展示事業 (10. 5. 4)

(1) 月別来館者数 (団体も含む来館者数)

月	入館者数
4月	280
5月	170
6月	268
7月	221
8月	324
9月	588
10月	782
11月	351
12月	302
1月	250
2月	441
3月	316
合計	4,293

(2) 企画展示別来館者数 (団体も含む来館者数)

企画展名	展示期間	入館者数
企画展「日野市の天然記念物」	4.2～9.4	1,307
企画展「鎌倉殿の平山季重～中世日野の武士の様相～」	9.10～12.4	1,770
企画展「ひのっ子くらし展 ～文集からみた昭和の子ども環境～」	12.10～3.26	1,216
パネル展「巽聖歌と童謡「たきび」誕生 80 年」	3.12.8～4.4.21	—
パネル展「七生丘陵散策コース 池」	4.22～8.3	—
パネル展「明日に伝える戦争体験」	8.5～9.22	—
パネル展 見直そう！楽しもう！真慈悲寺 ～新たな瓦の発見に沸く～	10.7～12.4	—
パネル展 ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語	12.8～4.4	

合 計	4,293
-----	-------

※パネル展は企画展と同時開催のため来館者数の記入なし

(3) 企画展「ひのっ子くらし展」関連講演会 「子どもの暮らしと年中行事」

日 時：令和5年2月25日(土) 14時～16時

会 場：教育センター講堂

講 師：服部 比呂美氏(國學院大學文学部准教授)

参加人数：18人

(4) 学校等団体来館者数

月 日	学校名等	対 象	内 容	人 数
6.23、24	日野第一中学校	2年	職場体験	6
6.30、7.1	日野第四中学校	2年	職場体験	8
9.22	豊田小学校	3年	社会科見学	130
10.4、5	大坂上中学校	2年	職場体験	1
10.6	滝合小学校	3年	社会科見学	87
10.7	平山小学校	3年	社会科見学	119
10.13	仲田小学校	3年	社会科見学	87
10.18	日野第七小学校	3年	社会科見学	98
11.1	日野第一中学校	1年	総合 地域学習	12
11.1、2	日野第二中学校	2年	職場体験	8
11.4	七生中学校	1年	総合 ミニフィールドワーク	6
11.24	わかば教室	小・中	脱穀体験授業協力	17
12.1、2	日野第三中学校	2年	職場体験	8
1.17	七生特別支援学校	中学部2年	展示見学	30
2.15	夢が丘小学校	3年	社会科 日野市のようすとうつりかわり	68
3.9	日野第三小学校	3年	社会科見学	80
合 計	16件			765

3 教育普及事業(10. 5. 4)

(1) 講座・体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
12.2	たきび祭 前夜祭「童謡「たきび」と『ラジオ少国民』をテーマにした講座	郷土資料館職員	旭が丘地区センター	40
3.19	化石でたどる大昔の日野	西田尚央氏	多摩川	20
3.28	程久保川に沿って歩こう～中流から多摩川・浅川の合流点をめざして	七生丘陵調査団	多摩動物公園駅から程久保地域	8
合 計	3件			68

(2) 連続講座 初心者向け古文書講座

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
2.5	第1回 人別送状・往來手形	大窪俊彦氏	郷土資料館	18
2.19	第2回 五人組帳1	大窪俊彦氏	郷土資料館	18

2.26	第3回 五人組帳2	大窪俊彦氏	郷土資料館	16
3.5	第4回 伊勢参宮日記1	上野さだ子氏	郷土資料館	18
3.12	第5回 伊勢参宮日記2	上野さだ子氏	郷土資料館	17
3.19	第6回 伊勢参宮日記3	上野さだ子氏	郷土資料館	16
合計	6回			103

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

ア 学校等への出張授業

月日	学校名	対象	内容	人数
6.2	日野第二中学校	1年	総合的な学習の時間 日野の歴史	208
6.22	夢が丘小学校	3年	総合的な学習の時間 七生丘陵	67
1.13	日野第八小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	92
1.24	南平小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	85
2.1	七生緑小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	104
2.10	潤徳小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	134
合計			6件	690

イ その他 講師派遣、出張パネル展など

月日	内容	会場	人数
9.17	蚕でつなぐプロジェクト「蚕のこと一緒に学びませんか Ver2」（繭から糸取り）公民館事業への協力		25
11.10	高山社 歴史館、日野桑園ほか市内案内		24
11.16	日野稲門会 平山地域案内		14
11.28	退職校長会 巽聖歌勉強会		17
1.15	日野市核兵器廃絶・平和都市宣言40周年イベント「日野の戦跡を通して」		30
1.25、2.1、8、15	たま学びテラス「多摩の丘陵地と史跡を歩こう」中央公民館と多摩市の公民館と協働		57
3.25～5.12	パネル展「七生丘陵散策コース 見晴らし台」	平山季重ふれあい館	-
講師等派遣 9回 167人参加 出張パネル展 1回			

(4) レファレンス事業

電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答 合計 65件

(5) 博物館実習

実習期間：9月1日～9月7日（ただし、4日は除く）の6日間 実習人数：7人

4 所蔵資料活用事業（10. 5. 4）

(1) 旧七生村行政文書のデジタルデータは、図書館と協働で実施

(2) 資料の貸出事業 概要

貸出先	資料	目的
-----	----	----

日野第四小学校	脱穀機・唐箕・手箕・千歯扱き・ ふるい・こき箸	5年 総合的な学習の時間 脱穀体験
平山小学校・日野第七小学校	糸車	1年 国語「たぬきの糸車」
中央公民館	座繰り器	糸取り体験
桜美林大学	千歯扱き 7点	博物館実習
合計 5件		

(3) 資料の撮影・閲覧申請 合計 23件

目的および資料概要

【講座用資料】化石、古文書、過去の風景写真 【展示パネル】過去の風景写真

【調査研究】鍛冶屋道具、古文書、蒸しかまど、過去の風景写真

【書籍・発行物・インターネット掲載】玉南鉄道絵葉書、高幡不動明王像・胎内文書、日野桑園第一蚕室、クジラ化石、石皿、板碑、巽聖歌肖像、過去の風景写真

5 資料収集保存・調査事業 (10. 5. 4)

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	防毒面用箱、鍛冶屋道具、どんど焼風景写真、扇風機、牛車、 苗取りいす、撚糸工場資料、平村古文書、日野自動車関連資 料、半鐘、ほうれん草を括る台、四ツ目ざる	11件 247点
資料購入	「宇治川大合戦図」、「東西源平武者鑑」、「城州宇治川合戦対 陣之図」、「浪華探索番所 京より重要報告書」	4件
収集資料の整備ほか	民具整理補助 市民協働 (29回)	80人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳 字七号～字拾三号」	96帖

(2) 調査事業

ア 真慈悲寺調査事業 (市民協働調査 真慈悲寺調査の会)

区分	種別	内容	人数
普及	展示	4.29～5.8 百草の歴史を楽しむパネル展 「鎌倉殿の13人と中世の大寺院真慈悲寺」 DVD 上映 慈岳山松連寺歴代住職の墓地公開 会場：京王百草園内松連庵	-
	講座	9.18 第16回真慈悲寺現地イベント 公開講座「百草八幡神社と真慈悲寺の中世瓦」 府中市郷土の森博物館長 深澤靖幸氏 会場：京王百草園内松連庵	33
	展示	10.6～12.4 パネル展「見直そう、楽しもう真慈悲寺 ～新たな瓦の発見に湧く～」 会場：郷土資料館廊下	-

	展示ガイド	11.12～11.18 百草の歴史を楽しむパネル展 「百草園にあった 鎌倉幕府ゆかりの大寺院真慈悲寺」 DVD 上映 市民ボランティア解説ガイド 慈岳山松連寺歴代住職の墓地公開 会場：京王百草園内松連庵	17
	展示ガイド	2.4～2.12 百草の歴史を楽しむパネル展「百草観音堂と領主小 林権大夫」 DVD 上映 市民ボランティア解説ガイド 慈岳山松連寺歴代住職の墓地公開 会場：京王百草園内松連庵	7
調査・研究	調査	11.19 百草八幡神社境内実地踏査	23
	調査	2.22～2.28 百草八幡神社境内確認発掘調査	20
	調査	3.4 百草八幡神社境内確認調査出土遺物整理作業	15
	研究会	真慈悲寺研究会（13回）	117
環境整備	その他	慈岳山松連寺歴代住職の墓地清掃 真慈悲寺調査センター整 備 百草地域解説看板清掃（4回）	21
合計		11件	253

イ 勝五郎生まれ変わり物語調査事業（市民協働調査 勝五郎生まれ変わり物語探究調査団）

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後（12回）	132
総会	5月第三日曜日	49
調査団学習会	今井秀和氏「転生と憑依のあわいで—前世Aと現世Bの「人格」をめぐる問題」	13
展示・講座・記念行事	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-
調査活動	報告書改訂版作成等に関する調査・編集	94
その他の活動	調査団ニュース発行（2回） 春休み子ども講座準備（3.26雨天による中止） WEB配信（4.1～3.31）818人	818
刊行物の発行	『ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書—改訂版—』500部	
合計（人数）		1,106

ウ 七生丘陵調査事業（市民協働調査 七生丘陵調査団）

内容	回数など	人数
定例会（11回）・総会（1回）	12	62
室内資料整理作業や打合せ	5	22
七生丘陵の観察記録見学会等野外活動	34	119
パネル展「七生丘陵散策コース 見晴らし台」のための準備を年間通して実施 展示期間：5.3.25～5.12 会場：平山季重ふれあい館	-	-

合 計	51 回	203
-----	------	-----

エ 古文書等調査事業

	内 容	回数など	人 数
日野の古文書 を読む会と協 働調査	古文書整理（市所蔵古文書）	20	99
	古文書の解読（古谷平右衛門日記ほか）	42	386
	例会・総会	11	210
	小計	73	695
日野の昭和史 を綴る会との 協働調査	日野本郷の地名、市内借用文書を解読	11	112
合 計		84 回	807

その他の古文書等調査事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影 市内借用文書、旧七生村・日野市行政文書ほか ・旧七生村行政文書のデジタルデータ化にともなう調査（図書館と協働）
--------------	---

オ 巽聖歌関連事業

内 容
巽聖歌パネル展（郷土資料館）R3.12.8～R4.4.21
たきび祭前夜祭 講座「童謡「たきび」と『ラジオ少国民』12.2、たきび祭 12.3
巽聖歌資料の整理・調査等、巽聖歌没後50年記念事業準備

カ 民俗調査（市民協働調査 サイノカミ・どんど焼き勉強会）

内 容	回数など	人 数
『コロナ禍におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査報告書』（内部資料）のための日野市域の行事追加調査、門松・しめ縄づくり調査等	12	40

キ その他

文化財緊急調査

市域の古写真調査とその記録撮影、坂下地蔵の銘文調査及び記録保存撮影

6 郷土資料館協議会（10. 5. 4）

開催日・会場	議 事 案 件
8.2 郷土資料館	日野市郷土資料館協議会第9期委員の任命交付 協議 日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価について（令和3年度事業） 報告 令和4年度事業の進捗状況と今後の予定 そのほか 古文書レスキューについて

開催日・会場	議事案件
	見学 企画展「日野市の天然記念物」
11.25 日野市役所 101 会議室	報告 令和 4 年度郷土資料館事業について ふるさと文化財課全体の事業について 教育センター（郷土資料館）施設の老朽化について 見学 特別展「七生丘陵いま・むかし ハイキングコースを歩く」
2.24 郷土資料館	報告 令和 4 年事業、郷土資料館を中心にふるさと文化課事業について 令和 5 年度ふるさと文化財課・郷土資料館事業について

7 古文書等歴史資料整理編集委員会（10. 5. 4）

開催日・会場	議事案件
6.16 郷土資料館	議題 1 令和 4 年度の資料調査事業について（20 件） 議題 2 マイクロフィルムのデータ化事業－令和 3 年度の報告と 4 年度の計画について 議題 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 4 その他
10.27 郷土資料館	議題 1 令和 4 年度の資料調査事業について（14 件） 議題 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 3 その他 見学 企画展「鎌倉殿の平山季重～中世日野の武士の様相～」
1.19 郷土資料館	議題 1 令和 4 年度の資料調査事業について（4 件） 議題 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 3 その他 見学 企画展「ひのっ子くらし展－文集からみた昭和の子ども環境－」

8 市刊行物の有償頒布 (歳入 17. 2. 2)

書名	単価 (円)	部数	小計 (円)
日野市史 通史編 一 自然 原始・古代	2,400	0	0
日野市史 通史編二 (上) 中世編	2,000	1	2,000
日野市史 通史編二 (中) 近世編 (一)	2,000	0	0
日野市史 通史編二 (下) 近世編 (二)	2,500	0	0
日野市史 通史編三 近代 (一)	2,400	0	0
日野市史 通史編四 近代 (二) 現代	3,000	0	0
日野市史 史料集 高幡不動胎内文書編	2,000	3	6,000
河野清助日記一 慶応二～四年	1,700	2	3,400
河野清助日記二 明治二～六年	1,700	1	1,700
河野清助日記三 明治七～十一年	1,700	1	1,700
日野市ふるさと博物館紀要 第1号	1,000	0	0
日野市ふるさと博物館紀要 第2号	500	0	0
日野市ふるさと博物館紀要 第3号	700	0	0
日野市ふるさと博物館紀要 第4号	1,000	3	3,000
日野市ふるさと博物館紀要 第5号	700	1	700
日野市ふるさと博物館紀要 第6号	700	0	0
日野市ふるさと博物館紀要 第7号	700	2	1,400
日野市ふるさと博物館紀要 第8号	1,000	2	2,000
日野市郷土資料館紀要 第1号	500	0	0
日野市郷土資料館紀要 第2号	500	0	0
日野市郷土資料館紀要 第3号	500	0	0
市制40周年記念企画展 大工場がやってきた ～産業で振り返る日野の昭和・平成 (図録)	300	1	300
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語 (DVD)	500	3	1,500
ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎 (絵本)	500	6	3,000

市制施行50周年記念特別展 日野市の半世紀 ～移りゆくまちの過去と今 そして未来～ (図録)	800	2	1,600
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書 改訂版	1,500	37	55,500
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語 日野市郷土資料館ブックレット1	200	16	3,200
日野の昆虫ガイドブック	1,100	0	0
新・日野の動物ガイドブック	1,200	0	0
たきびの詩人 巽聖歌 日野市郷土資料館ブックレット2	200	20	4,000
日野用水開削四五〇周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～ (図録)	500	10	5,000
たきびの詩人 巽聖歌資料集1 — 野村七蔵から巽聖歌へ —	1,600	2	3,200
日野市域における サイノカミ・どんど焼き行事調査報告書	600	4	2,400
	合計	117	101,600

<参考資料>

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 日野市郷土資料館協議会委員名簿 (第9期)

番号	氏名	専門分野	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	5
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	4
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	4
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	4
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	3
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	3
7	斉藤境栄 任期：令和4年4月1日～令和6年3月3日	学校教育の関係者 (東光寺小学校校長)	1
8	川島清美 任期：令和4年4月1日～令和6年3月3日	学校教育の関係者 (日野第三中学校校長)	1
9	河合今日子	公募市民	1
10	藤森寛行	公募市民	1

任期 自 令和4年 3月 4日
至 令和6年 3月 3日

令和5年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和4年度事業)

令和5年9月

日野市ふるさと文化財課
(郷土資料館)

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915